

最新の木造建築講演

武庫川女大で京大教授

西宮市戸崎町の武庫川女子大学甲子園会館でこのほど、「木質構造学の今―木材の基礎知識と建築利用―」と題して特別公開講演会があった。写真。京都大学生存圏研究所・五十田博教授が木材を建築に活用していく上での耐火・耐震への新技術や新材料について紹

介。木造建築の大規模化や高層化の現状、展望についても説明した。武庫川女子大学建築学科が主催。学生や一般市民ら約160人が参加した。五十田教授は、串団子の串の太さと団子の重さを例に、耐震設計の基本をわかりやすく説明。

免震構造や制震構造についても実証実験の映像を示しながら伝えた。

講演の終盤では90年代から欧州を中心に発展する厚型パネル・CLT(直交集成板)による海外の高層建築を示し、「日本は木の文化を持ちながら、木材の活用技術は海外に遅れている。木材を有効活用していく必要がある」と話した。

【高尾具成】

